

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	4-2-3		事業名	焼却灰リサイクル可能性調査
担当	環境局環境事業部施設管理課 戸田 Tel:211-2922			
全 体 計 画				
事 業 内 容	最終処分場の延命化を目指して、ごみを燃焼したあとに発生する焼却灰をセメント原料等として再利用する技術が開発されつつあるので、焼却灰のセメント化事業実施に向けた課題を整理する。	<年度別の事業内容>		
		焼却灰リサイクルの試験を各年度で実施する。	平成20年度 目標リサイクル量: 100トン	平成21年度 目標リサイクル量: 1,000トン
事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所	平成19年度事業内容(決算)	平成20年度事業内容(決算)		
	白石清掃工場の焼却灰を、専用コンテナに積み込み鉄道輸送を利用して北斗市のセメント工場へ運搬し、セメントの原料として試験的に再利用した。			
規 模 ・ 件 数 等	平成21年度事業内容(決算)	平成22年度事業内容(決算)		
	○平成20年度に白石清掃工場の焼却灰を原料の一部として用いた普通ポルトランドセメントについて、道立工業試験場等との共同研究として、強度試験、成分分析、重金属溶出試験等を行い、安全性の確認を行った。 ○駒岡清掃工場及び発寒清掃工場の焼却灰を、専用コンテナに積み込み鉄道輸送を利用して北斗市のセメント工場へ運搬し、セメントの原料として試験的に再利用した。			○駒岡・発寒清掃工場及び白石清掃工場の焼却灰を、専用コンテナに積み込み鉄道輸送を利用して北斗市のセメント工場へ運搬し、セメントの原料として試験的に再利用した。輸送車両・容器と清掃工場灰搬出設備の適合など一定の課題が解消され、事業化に向けて検証が進んでいる。

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	4-2-3		事業名	焼却灰リサイクル可能性調査			
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
【参考】焼却灰リサイクルの事業化見通しを立てるために試験を実施する			45.64トン	103.2トン	—	116.69トン	
[焼却灰のセメント原料への再利用]事業実現性評価					実施	実施	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 該当なし</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力]該当なし [人材協力]該当なし [情報協力]該当なし [その他の協力]該当なし</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 焼却灰を民間セメント工場でセメント原料として再利用するため、企業との連携・協働が伴う事業である。</p>							
評価(成果)	課題						
○現在、埋立処分している焼却灰をリサイクルし、埋立地の延命化を図ると同時に資源としての有効利用を期待し、平成20年度から22年度にかけてセメント資源化試験を実施実施した。有害性や製品の強度等に問題はなく、概ねセメント原料としてのリサイクルに支障がないことが確認された。	○セメント原料としての再利用は、札幌市周辺に事業所が無いため、主として遠隔地にて実施されることから、焼却灰の安定的な運搬・処理形態(出荷体制、受入体制などを含む)の検討が必要であり、また、運搬・処理に伴うコストについて検証が必要である。						
今後の事業の予定・方向							
<p>○焼却灰のセメント化などのリサイクルを試験的に実施し、抽出された課題の解消、リサイクル費用と埋立処分費用との費用対効果の検証を進めるとともに、埋立地の延命化及び造成費・用地取得費の削減にどのような効果をもたらすかを分析する。</p> <p>良好な結果が得られれば、焼却灰のセメント化事業の本格実施を目指す。</p>							

様式イ

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)